



2008～09 年度
国際ロータリー会長

李 東 建

Weekly Report Niigata



2008～09 年度
新潟ロータリー会長

柴 田 史 郎

新潟 RC 2 月第 2 例会 (2009.2.10) No.2787

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 柴田 史郎会長挨拶

ロータリークラブでは例会への出席を重視します。クラブ定款をみても厳しい出席規定が書いてあります。所属クラブの例会を欠席した場合のメイクアップの制度もありますが、ご承知のように限られた場合のみ認められます。これに対し、社会奉仕などの実践活動へ参加した場合にも、メイクアップとして考慮に入れてはどうかとの意見も有ります。

ところで、ロータリークラブの会員構成は1業種1人が原則です(5人まで、10%までなど緩くなっている面もありますが)。異業種のメンバーの集団ですから、競争相手もなく、警戒すべき相手もなく、親分・子分もなく皆平等と言う環境のもとで、例会が行われます。ひごろ、戦場のような毎日を送っておられる会員にとって、ホットする空間であり、心のゆとりが生まれ、人間の本性を取りもどす場となり得ます。しかめっ面をしながらではなく、親睦を深めながら、楽しみながら我に返って、反省の時間を持つというのが例会の意味であろうかと思えます。例会とはそのような特別な空間であります。

世の中には多くの奉仕団体、慈善団体、寄付団体が存在します。ロータリークラブもそれらの活動も行いますが、他の団体とは一線を画するものがあります。では他の団体と異なるロータリークラブのアイデンティティとは何か。それはロータリーの綱領でうたっているとおり、自らの職業(天職)を通じて職業倫理・倫理観を高めることであると思われまふ。つまり倫理感の高い職業人、人物を育てるということを第一義的な目的としています。そこにこそロータリーのロータリーたる所以があるという事です。ですから、特別な空間である例会に出席して、その目的に向かったの活動することが基本になると思われまふ。そして、その結果として会員に芽生えた善意や奉仕理念を基にして、団体としての社会奉仕を含む実践活動をする事も有り得まふ。つまり、実践活動とは「結果」であって、それそのものが第一義的な「目的」であるとは言えないようです。ここに他の団体との違いがはっきりと認められまふ。

以上から、特別な空間である例会に出席して、綱領にうたわれているロータリーの本来の「目的」を求めて活動することこそがロータリーの基本になります。したがって、これに代わるもの(メイクアップ)は原則として見当たらない、ということになります。

社会奉仕などの実践活動が、例会出席の代わりとしてのメイクアップたり得る余地は、大変すくないと考えられまふ。

皆さんのお考えは如何でしょうか。

なお、お断りしておきますが、地域や社会といった外に向かったの広がりを持つ、社会奉仕のような実践活動の重要性を否定しているわけでは決してありません。

(3) 委員会報告

・小林 敬直会長エレクトより次年度委員会組織についての説明と協力依頼があった。

・佐藤 紳一新世代奉仕委員長より青少年育成基金事業に対する表彰者推薦のお願いがあった。

(4) 卓話「おいしさと味覚—うま味の特性について」

味の素(株)東京支社営業企画グループ広報普及チーム

課長 田中晴生氏

2月17日の例会予定

卓話「南極調査の現場から—

企画の運営とリスクマネジメント」

新潟大学研究支援部国際課課長 川久保守氏

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigataarc.jp/>